

記者発表資料

大分市内の渋滞緩和に向けて実施した 社会実験の結果を報告します

大分県交通渋滞対策協議会では令和3年12月6日(月)～12月17日(金)に、大分市内の渋滞緩和に向け社会実験を実施致しました。

その結果について報告致します。

＜社会実験の内容＞【別紙1】

- ・自動車通勤の方を対象に、普段の通勤方法を見直して頂き交通混雑を緩和する取り組みを実施しました。
- ・賛同頂いた企業・団体の皆様とともに、自動車通勤経路の変更、自転車や公共交通機関への転換、時差出勤・テレワークを実施し、市内の渋滞緩和を図りました。

＜社会実験の結果概要＞【別紙2】

- ・社会実験に延べ1,599人が参加※し、二酸化炭素排出量が約1.3t-CO₂削減されました。

※アンケートにお答え頂いた方の延べ参加人数であり、この他、アンケート回答していない方も参加した可能性があります。

- ・大分市の主要渋滞箇所等において交通量の減少・速度の上昇が確認され、国道10号府内大橋北交差点では朝ピーク時において、交通量：約50台/時の減少、速度：約2.7km/hの向上を確認しました。
- ・その他、今回の社会実験の効果検証等について、以下に掲載しております。

令和3年度 第2回大分県交通渋滞対策協議会

【ホームページ】 http://www.qsr.mlit.go.jp/oita/roadinfo/jutai_kyogikai/r03_02jutai_kyogikai.html

令和3年度 第2回大分県交通渋滞対策協議会

検索 

【問合せ先】

国土交通省九州地方整備局
大分河川国道事務所
TEL:097-544-4167(代表)

技術副所長(道路) 伊藤 康弘
調査第二課長 管谷 滋志

【大分県渋滞対策協議会メンバー】

国土交通省九州地方整備局 大分河川国道事務所
国土交通省九州地方整備局 佐伯河川国道事務所
国土交通省九州地方整備局 道路部
国土交通省九州運輸局大分運輸支局
大分県警察本部、大分県、大分市
西日本高速道路株式会社九州支社
JAF大分支部、大分県トラック協会
大分県バス協会、大分県タクシー協会

今回の社会実験の内容について

【別紙1】

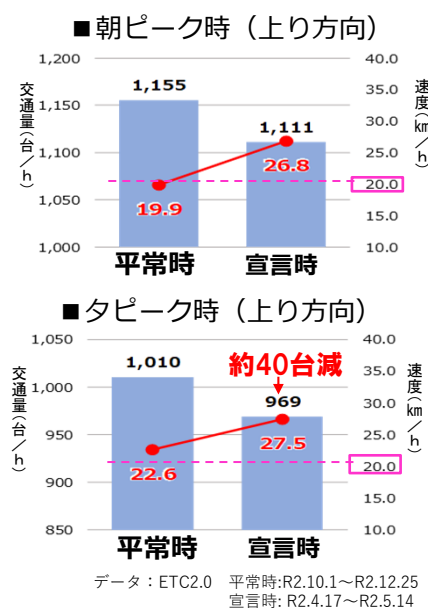
コロナ禍の交通動向から得られた知見を踏まえ、TDM施策(渋滞緩和に向けた取り組み)を試行

・令和2年4月～5月に大分県に発令された緊急事態宣言中は、不要不急の外出自粛などにより交通量が減少し、大分市中心部の幹線道路を中心に渋滞箇所の渋滞緩和がみられました。



▲緊急事態宣言時に渋滞が緩和した主要渋滞箇所

例)府内大橋北交差点
約40台/時の減少で渋滞緩和

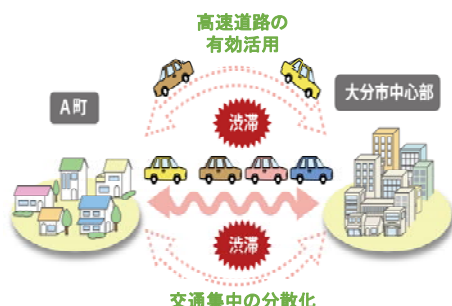


・こうした交通動向の知見を踏まえ、試行的なTDM施策を実施して渋滞状況の変化を検証しました。

試行TDM施策

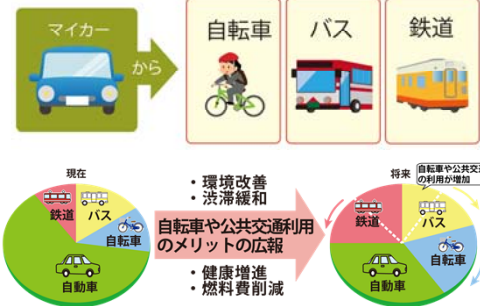
通勤経路の変更

○混雑していない経路への転換を促します



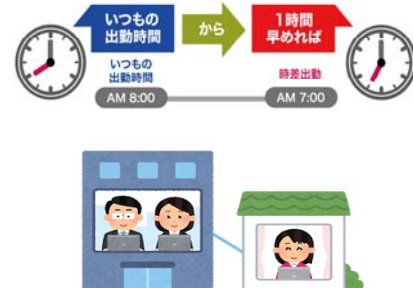
通勤手段の変更

○自動車から公共交通や自転車へ手段変更を促します



時差出勤・テレワーク

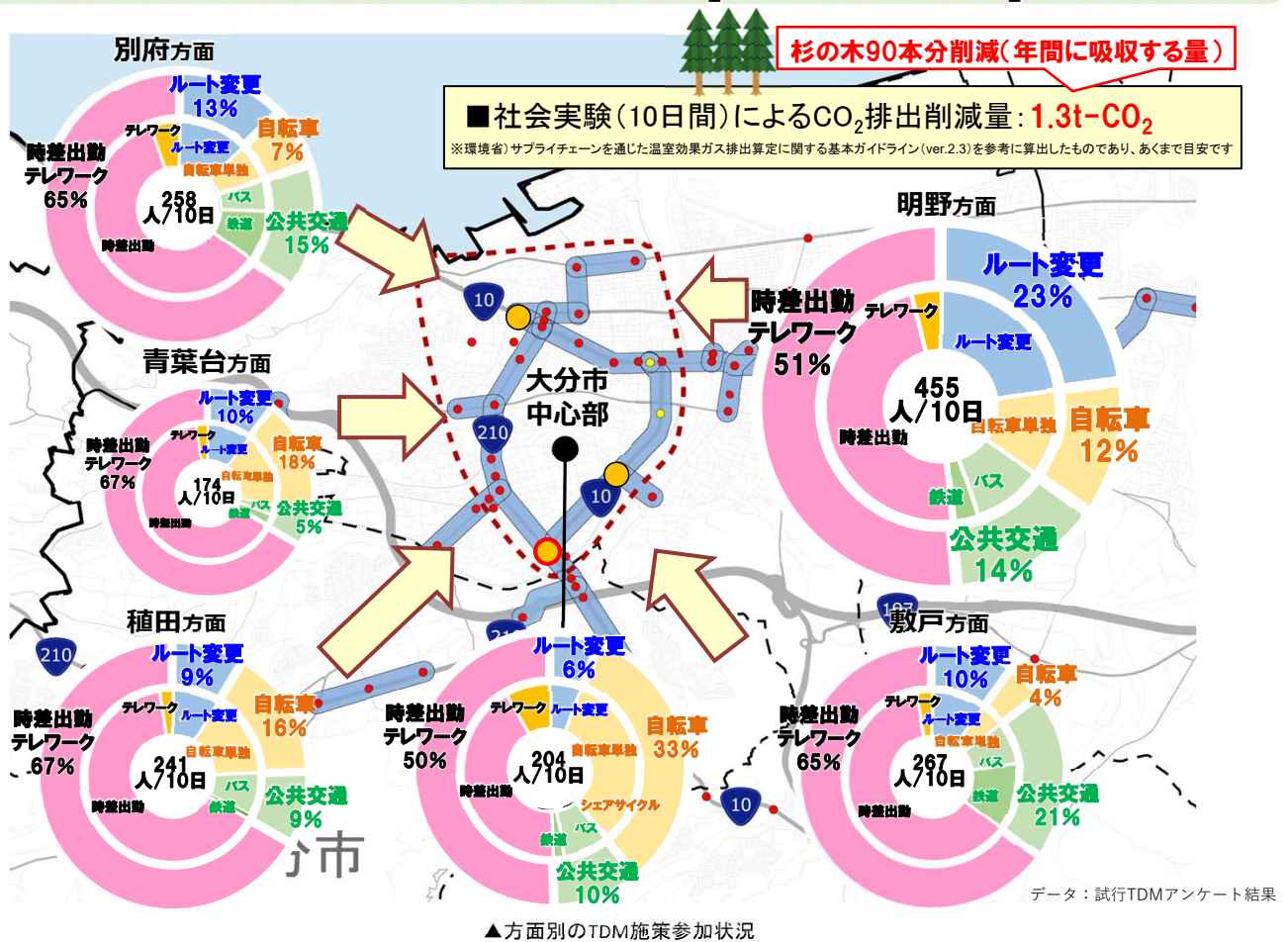
○通勤時間の平準化や通勤交通の抑制を促します



※TDM施策: 自動車の効率的利用や公共交通への転換などの交通行動の変更を促すことで、自動車交通量の平準化や抑制を図り、道路交通混雑の緩和や環境改善などを推進する取り組み

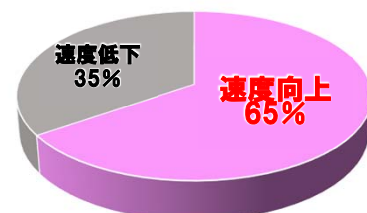
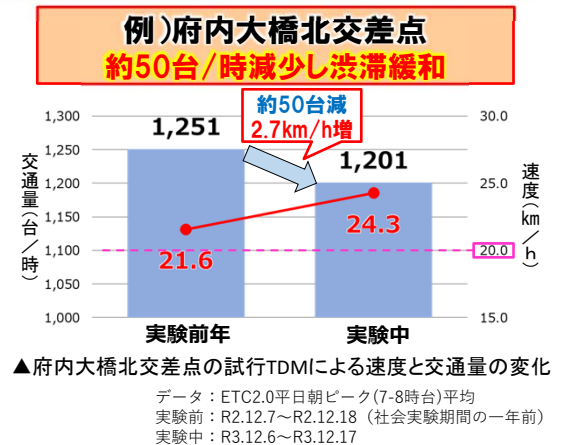
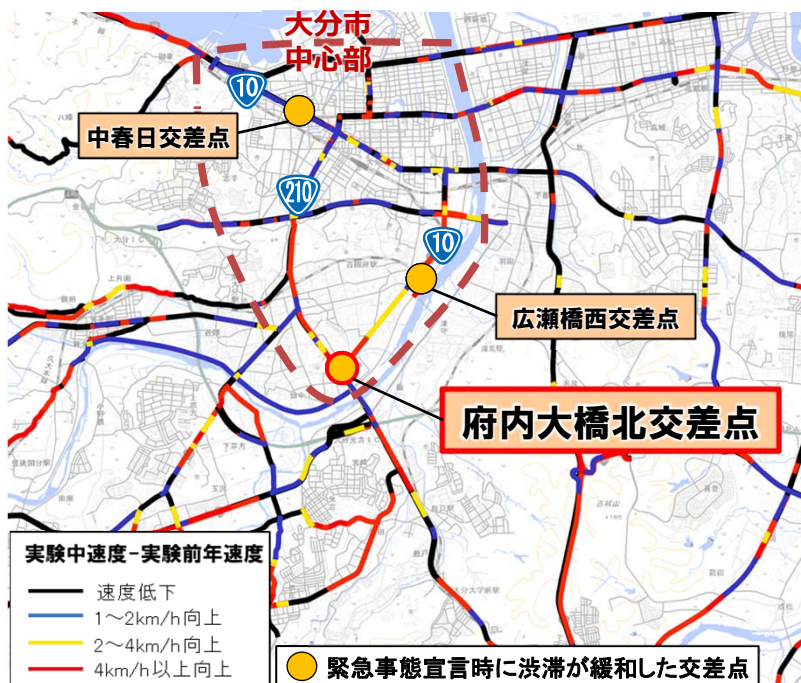
今回の社会実験の結果について 【別紙2】

効果① 本取り組みに延べ1,599人が参加し、CO₂排出量が1.3t-CO₂削減されました



※アンケートにお答え頂いた方の延べ参加人数であり、この他、アンケート回答していない方も参加した可能性があります。

効果② 府内大橋北交差点等の大分市中心部において、朝ピーク時の速度が向上



▲大分市中心部(国道10号、210号)の路線延長に対する試行TDMによる速度変化状況

データ: ETC2.0平日朝ピーク(7-8時台)平均
 実験前: R2.12.7~R2.12.18 (社会実験期間の一年前)
 実験中: R3.12.6~R3.12.17